



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二八一号〜

処暑 しよしよ 八月二十三日

大安旅館

良い日柄の「大安」と書いて、「だいやす」。六十代以上の伊勢の人なら誰もが知っていたことでしょう。明治・大正・昭和の長きにわたって繁盛した古市の大安旅館です。

伊勢の古市は、江戸時代、遊郭や妓楼ぎろう、芝居小屋が並ぶ花街で、お伊勢参りの「精進落とし」の場として多くの人々で賑わいました。その様子は、弥次喜多道中や名所図会なごころずゐにも描かれています。

その古市に大きな変化があったのが、明治四年の神宮改革でした。参拝者を自らの邸宅に宿泊させていた御師おんしの制度が廃止され、旅館営業が自由になると、伊勢市内には次々と宿泊施設が建てられました。古市の旧伊勢街道沿いにも十四軒の旅館が軒を連ねたといえます。

先日、伊勢古市参宮街道資料館で開催された企画展「大安旅館」を拝見すると、白髪の女性を写した写真がありました。大安旅館の女将だった井村かねさんです。大安旅館は、戦後、皇族も宿泊する格式の高い旅館で、これもこの女将の才覚によるものだったと説明されていました。大安の看板を背景にして、縁側に腰掛ける姿には、女傑の風格が漂っています。昭和四十七年に廃業した後も、古市のことを後世に伝えたいと昔のことを書き記した「伊勢古市こぼれ話」は今も残っています。館内に展示された旅館看板の大的マークは、威勢のよい文字で、かねさんの姿とどこか重なりました。きつと看板女将も自慢の看板だったことでしょう。

大安旅館が建っていた長峰神社の向いに行ってみると、高台の地からは伊勢の町が望めました。この展望も、かねさんの自慢であったに違いありません。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 奉納行列参加者募集

おかげ横丁では、年に一度、おかげの心を神様にお届けする神宮奉納行列を行います。

五穀（米・麦・粟・黍・豆）を手に、^{うちき}袴姿の少女達を先頭に、神宮への奉納物（伊勢海老・伊勢茶など）を担いだ一行が、内宮神楽殿へと向かい奉納します。奉納後、今年の実りを感謝し、お神楽をあげます。

この行列に参加いただける女の子を募集しています。

と き／10月6日(土) 10:00～12:00頃解散

締切り／9月9日(日)必着分まで

人 数／12名

条 件／①小学校3年生～6年生の女の子。

②髪の毛が後方でひとつにまとめられる長さであること。

③10月6日7:45までにおかげ横丁に集合できること。

参加料／無料※ただし、おかげ横丁までの交通費については、参加者のご負担をお願いします。

選考方法／応募者多数の場合は抽選

結果通知／選考後、応募者全員に9月15日(土)までに電話にて通知

問合せ・申込み／保護者氏名(フリガナ)・参加者氏名(フリガナ)・年齢・

住所・電話番号を明記の上、郵送、FAXまたはHPの募集フォームからお申し込みください。

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52

「恵みの市事務局」宛

TEL 0596-23-8827 FAX 0596-23-8814

五十鈴塾

○ 夏の星見と火星大接近

今年の夏の星空には例年の七夕の織姫や彦星に加えて、西から金星、木星、土星、大接近中の火星が勢揃いしています。晴れたらレーザーで夏の星座をたどったり、望遠鏡で惑星たちを次々ご覧いただきたいと思います。火星は2年2ヶ月ごとに地球との距離が近くなる「接近」をします。この接近距離は火星の軌道がはっきりとした楕円なので倍近くも変わります。今年は15年ごとに巡ってくる最も近いところで並ぶ大接近です。純粋に距離だけを見ると7月31日が最接近となりますが、宵空での観望好機はおおよそ1ヶ月後からとなります。今回はちょうどその観望好機に日程を設定できました。お楽しみに。

と き／8月24日(金) 18:30～20:30

講 師／毛利 勝廣(名古屋市科学館主任学芸員)

参加料／一般1,600円 会員1,100円(お菓子付)

場 所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

つゆ たま
露の玉

羊羹のきんとんと、露に見立てた錦玉の組み合わせ。
秋の季語「露の玉」を、お菓子で表現しました。

のざく
野菊

嫁菜や野紺菊など、数多くの仲間を持つ野菊。
練りきりで粒餡を包み、初秋の野末に揺れる、
小さな白い花輪に見立てました。

ふじはかま
藤袴

葛製の生地と緑餡で染め分けた、紫・白・緑の彩り。
この時季にふさわしい、花そのままの姿が印象的です。